

March 27, 2020

【前日の為替概況】パウエルFRB議長追加緩和示唆でドル全面安、109.21円、1.1059ドル

26日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは4日続伸。終値は1.1032ドルと前営業日NY終値(1.0882ドル)と比べて0.0150ドル程度のユーロ高水準。パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長がNBCとのインタビューで「FRBはまだ行動する余地がある」「弾薬がなくなることはない」と述べ、新型コロナウイルスのパンデミック(世界的大流行)の中で、「米経済における与信の流れが滞ることのないよう支える強力な取り組みを維持する」と表明すると全般ドル売りが優勢となった。前週分の米新規失業保険申請件が328万3000件と予想の100万件を大きく上回り、過去最多となったこともドル売り圧力を高め、一時1.1059ドルまで値を上げた。ユーロはドル以外の通貨に対しては軟調に推移した。欧州中央銀行(ECB)が7500億ユーロ規模の新たな債券購入プログラムを開始したと発表し、これまで自ら設定していた債券買い上げの制限を取り払い、イタリアなどユーロ圏内の債務国を積極的に支援する姿勢を示したことを受けた。ユーロ豪ドルは1.8124豪ドル、ユーロNZドルは1.8436NZドル、ユーロポンドは0.9034ポンドまでユーロ安に振れた。

ドル円は下落。終値は109.58円と前営業日NY終値(111.21円)と比べて1円63銭程度のドル安水準。パウエルFRB議長が追加緩和の可能性に言及したことや、低調な米雇用指標の結果を受けてドル売りが優勢となり、109.21円と日通し安値を付けた。米国株相場の上昇を背景にドル需給のひっ迫に対する警戒感が後退し、全般ドル売りの流れが続いた面もある。現物のダウ平均は一時1400ドル近く上昇したほか、ナイト・セッションの日経平均先物は大証終値780円高の1万9140円まで買われた。主要通貨に対するドルの値動きを示すドルインデックスは一時99.24まで低下した。

ユーロ円は6営業日ぶりに反落。終値は120.91円と前営業日NY終値(121.02円)と比べて11銭程度のユーロ安水準。ECBの債券購入プログラムを受けて一時119.96円と日通し安値を付けたものの、NY市場に入ると買い戻しが進み121.00円付近まで持ち直した。

【本日の東京為替見通し】ドル円、FRBの追加緩和観測と3月期末に向けたレパトリで続落か

本日の東京市場のドル円は、ダウ平均が2兆ドル規模の新型コロナ景気対策を受けて反発していることでドル資金需要が後退していること、3月期末決算に向けたレパトリエーション(国外滞留資金の本国環流)で続落が予想される。

ドル円は、パウエルFRB議長がゼロ金利と無制限の量的緩和に加えて、追加緩和の可能性を示唆したこと、米国の労働市場の悪化、3月期末決算に向けてレパトリエーション(海外投資資金の本国への還流)の円買いが優勢となることで軟調推移が予想される。

米国の新型コロナウイルス感染者数は、82404人(死者1178人)となり、中国の81782人(死者3291人)を抜いて世界最大となっている。

ドル円は2月24日の高値111.68円から、新型コロナウイルスのパンデミック(世界的大流行)宣言を受けたリスク回避のドル売り・円買いで101.19円まで下落後、世界的な資産市場の下落を受けた約12兆ドルのマージン・コール(追証)によるドル争奪戦により、3月24日に111.71円まで反発した。しかし、ダウ平均はトランプ米政権の2兆ドル規模の新型コロナ景気対策への期待感から反発しており、ドル選好地合いが後退している。

ドル円のテクニカル分析でも、3月24日に相場の反転を示唆する寄引同事線が示現し、2手連続陰線、抱き線により、一目均衡表・雲の下限109.94円を下抜けたことで、下落トレンドの可能性が示唆されている。

昨日発表された前週(3/15-21)の新規失業保険申請件数は過去最多の328.3万件に増大した。来週発表される米3月の非農業部門雇用者数は、調査対象が3月8-14日なので、新規失業保険申請件数28.2万件に対応して、前月比▲29.3万人(最悪▲70万人、最高+8万人:▲はマイナス)と予想されている。しかし、セントルイス地区連銀は、米国の失業者数が5280万人に増大、失業率が32%へ上昇して、大恐慌時の1933年に記録した24.9%を上回るとの試算を公表しており、要警戒となる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○08:30 ◎ 3月東京都都区部消費者物価指数（CPI、生鮮食料品除く総合予想：前年比0.4%）

<海外>

○16:45 ◇ 3月仏消費者信頼感指数（予想：92）

○21:00 ◇ 2月メキシコ貿易収支（予想：9.50億ドルの黒字）

○21:30 ◎ 2月米個人消費支出（PCE、予想：前月比0.2%）

◎ 2月米個人所得（予想：前月比0.4%）

☆ 2月米PCEデフレーター（予想：前年比1.7%）

☆ 2月米PCEコアデフレーター（予想：前月比0.2%/前年比1.7%）

○23:00 ◎ 3月米消費者態度指数（ミシガン大調べ、確報値、予想：90.0）

○28日 欧州が夏時間に移行

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

26 日 07:35 トランプ米大統領

「世界保健機関(WHO)は非常に中国寄りだ」

26 日 11:21 米共和党のマコネル上院院内総務の側近

「米上院は、今夜新型コロナ景気対策法案を採決」

26 日 13:04 ホイヤー米下院院内総務(民主党)

「27 日に下院で新型コロナ景気対策法案を採決」

26 日 13:39 麻生財務相

「原油安、間違いなく日本経済にプラス」

26 日 18:08 安達日銀審議委員

「新型コロナの拡大で日本・世界経済は極めて不確実性が
高い」

「新型コロナはリーマン・ショックと違って底打ちが見えない」

「現状ではまだ追加で金融政策を行う状況ではない」

26 日 20:16 パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長

「現在の危機は典型的な不況ではない」

「優先事項は、ウイルスを制御下に置くこと」

「経済には根本的に問題はない」

「リセッションに陥っている可能性がある」

「FRB はまだ行動する余地がある」

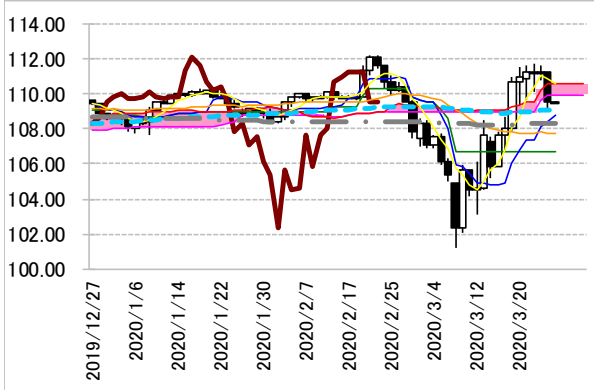
「弾薬がなくなることはない」

27 日 01:39 国際エネルギー機関(IEA)のピロル事務局長

「世界の石油需要の低下に歯止めがかからない」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

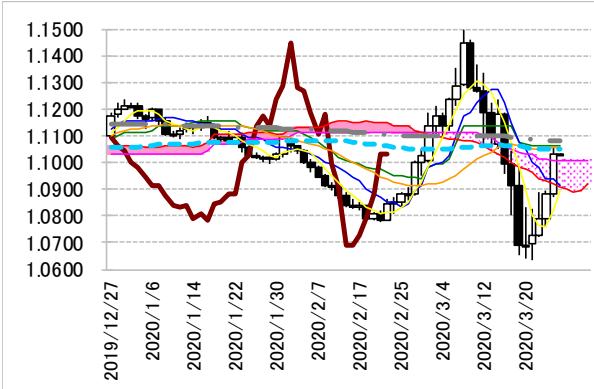


<ドル円=雲の下限を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。毛抜き天井（112.23円・112.19円）を上抜けることが出来ず、3月24日の高値圏での寄り同事線、抱き線により続落の可能性が示唆されている。

本日は、雲の下限を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	110.60(日足一目均衡表・雲の上限)
レジスタンス 1	109.94(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	109.58
サポート 1	108.76(日足一目均衡表・転換線)
サポート 2	107.89(3/19 安値)

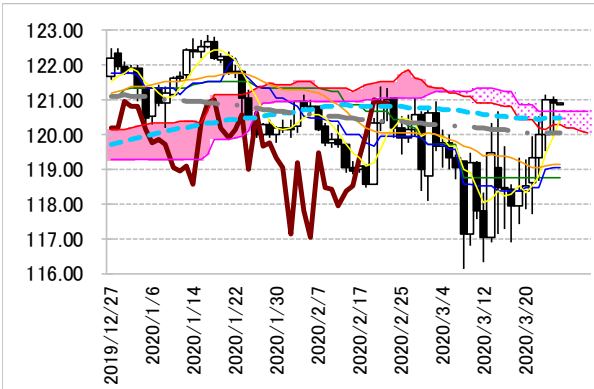


<ユーロドル=転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回っているものの、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、買いシグナルが優勢な展開となった。4手連続陽線で、続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1066(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	1.1032
サポート 1	1.0913(日足一目均衡表・転換線)

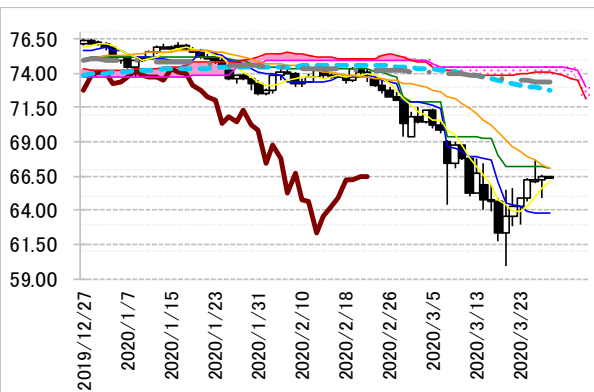


<ユーロ円=雲の下限を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を下回り（売りシグナル）、一目・雲の上で引けていることで、買いシグナルが優勢な展開。転換線や雲を上回っていることで、上昇トレンドの可能性が示唆されている。

本日は、雲の下限を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	121.40(2/20 高値)
前日終値	120.91
サポート 1	120.30(日足一目均衡表・雲の下限)



<豪ドル円=転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。しかし、底値圏から5手連続陽線（※25日は寄り同事線）で反発しており、続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	67.10(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	66.45
サポート 1	63.81(日足一目均衡表・転換線)

